

お金の管理を学ぼう

講座 6 「経済生活について」

演習 6 「上手な家計と貯蓄」

講師 社会福祉士 菅井昌恵

1 『学んでほしいこと』

私たちは経済というしくみのなかで、働いてお金を得て、モノやサービスを買って生活をしています。経済というと、とてもむずかしいことのようにですが、たとえば、あなたが弁当屋さんで弁当を買ったとき、あなたが払ったお金はどうなるのでしょうか？ そういう私たちの身近なことから経済生活を学んだり、お金の管理について学ぶことは、地域で自立して生活するための第一歩としてとても大切です。生活にかかるお金や給料の使いかた、こづかいと貯金などの基本を学んで、家計簿（こづかい帳）をつける実習もしますので、お金の管理をどうすればよいか、いっしょに学びましょう。

また、現代社会ではさまざまな消費者トラブルがあり、障害のある人が悪徳商法の被害にあったり、ケータイ（携帯電話）や電子マネーのトラブルに巻き込まれたりすることも少なくありません。ですから、どんなことに気が付いたらよいか知っておくことや、困ったときはすぐに家族や先生たちに相談することの大切さも学んで、大事なお金を上手に使える人になることを目指しましょう。

2 『学びのポイント』

- (1) 身近な例（弁当屋さんで弁当を買う）を用いて、「お金」「モノ」「サービス」の流れである経済のしくみや、世の中の経済生活について、大まかなイメージでとらえられるようにします。
- (2) 生活にかかるお金（「生活費」）について、毎日の生活を振り返りながら具体的に考え、一人暮らしなどの自立した生活も視野に入れた生活費を理解できるようにします。また、給料の使い方を「生活費」「こづかい」「貯金」などに分けて楽しく考えられるようにします。
- (3) お金は計画的に使わないとすぐに足りなくなってしまうことに気づき、計画的に使うことの大切さや貯金の基本について学びます。また、通帳やキャッシュカード、ハンコの取り扱いや暗証番号の秘密保持も学びます。
- (4) 家計簿（こづかい帳）をつける実習では、収支について基本を理解できるようにします。費目の設定など通常の家計簿の様式ではなく、お金を何に使ったかを気楽に書き込めるように、シンプルな様式で作成した

ものを用いて、実践の意欲を高めます。

- (5) お金を上手に使える人はどんな人か？ について、①「だいたい、どれくらい」がつかめる人②自分も人も大事にする人③使えるお金で生活できる人④見えないお金の注意ができる人、の4点から考えます。また、消費者トラブルの具体例をあげ、それぞれにどういう注意や用心をしたらよいかを学びます。
- (6) 消費者トラブルや金銭管理で困ったときは信頼できる人に必ず相談することや、社会福祉協議会の福祉サービス利用支援事業「かけはし」サービスが利用できることも説明して、消費者トラブルをただ恐れるだけでなく、いつでも相談できるから大丈夫だと、勇気づけるようにします。

3 『支援のポイントとテキストの活用方法』(SP=Support Point)

講座 6

《SP1》支援者の配置

自分で金銭管理をしている人も、ほとんど体験したことがない人も、全員が発言しやすいように、支援者が配慮しながら声かけをします。

また、テキストへの書き込みや家計簿（こづかい帳）をつける実習では、記入が難しい人は手を挙げてもらいます。手が上がった人に支援者が行き、その後もその人の近くで、タイムリーな支援ができるようにします。

《SP2》テキストの進め方1

テキスト「はじめに経済の話」は、テキストの「考えるヒント」を参考にしながら、弁当が作られて販売されるまでの流れ、弁当屋で働く人の給料や経費、弁当屋の利益などを十分に想像できるよう支援します。

《SP3》テキストの進め方2

テキスト「1. お金の管理を学ぼう（1）給料と生活費」は、毎日の生活にかかるお金を具体的に考えられるようにします。一人暮らしなどの自立した生活も視野に入れた生活費や給料の使い方について、楽しく考えることができるよう支援します。

《SP4》テキストの進め方3

テキスト「1. お金の管理を学ぼう（2）こづかいと貯金」は、お金が足りないときはどうするかを考えてもらい、計画的に使うことの大切さに気づけるよう支援します。貯金（預金）の通帳・キャッシュカード・ハンコは、テキストの実物の写真を一例として確認するとともに、これらの保管に十分気をつけることや、暗証番号の秘密保持についても注意を促します。

《SP5》テキストの進め方4

テキスト「1. お金の管理を学ぼう（3）家計簿（こづかい帳）をつける」は、何にいくら使ったかを書くだけで、計算は電卓やケータイがしてくれると気楽さをアピールして、家計簿（こづかい帳）をつける意欲を高めるよう

支援します。

《SP6》テキストの進め方5

テキスト「2. 大事なお金を上手に使える人になろう（1）お金を上手に使える人はどんな人？」は、消費者トラブルについて理解するために活用します。また、Web版の消費者教育読本（詳細は『資料の紹介』にあります）の「知ってる？ 電子マネー」を用いることで、テキストの内容を理解しやすいように支援します。

《SP7》テキストの進め方6

テキスト「2. 大事なお金を上手に使える人になろう（2）困ったときは相談することが大切」は、福祉サービス利用支援事業「かけはし」が利用できることを、パンフレットも参照しながら説明します。

演習 6

《SP1》実習1「家計簿（こづかい帳）をつけてみる」

各自が最近のお金の使いみちを振り返って、家計簿（こづかい帳）に記入していきます。この家計簿（こづかい帳）の呼び方を各自が自由に決め、親近感をもてるように支援します。記入は「何に使ったかを書くだけでよい」「計算は電卓やケータイがしてくれる」と、気楽さをよく伝えます。

《SP1》実習2「支出するお金を考えて、こづかいのしわけをしてみよう」

1ヵ月間に、何にお金を使うか、金額はどのくらいかの見通しを立てられるようにします。テキストの金額については、各自のこづかいの金額に合わせて変更してもかまいません。

4 『資料の紹介』

- ① 多重債務者問題からみた社会福祉のあり方研究会（通称：おたふくけん）
「上手に使って豊かな暮らし～知的障害者の金銭管理の支援のために～」
（2010.7）
- ② 東京都生活文化局消費生活総合センター「特別支援学校高等部の学生向け
Web版消費者教育読本『ハカセといっしょに消費者の時間へGO！～知ってる？電子マネー』」（2010）
- ③ 日本企画・編集 全国特別支援学校知的障害教育校長会「私たちの進路」
日本教育研究出版

5 『講師の感想』

経済という言葉は、よく耳にしますが、なかなか実感としてとらえにくいものだと思います。ですから、今回の講座6「経済生活について」の内容をどのように組み立てたらよいのか、ずいぶん悩みましたが、受講者のみなさんの毎日の生活に身近なことを一緒に考えたらいいのだと気づきました。その1つが弁当屋さんで弁当を買うエピソードです。払ったお金はどうなる？

を想像するのはおもしろいですし、これを「経済生活」を学ぶきっかけにできるのではないかと思い、準備をしました。

また、講座6・演習6を通して、受講者のみなさんひとりひとりの金銭管理体験や消費者としての体験が異なっていることについて、どう配慮すればよいか心配しました。ですが、講座当日、みなさんの「ともに学ぶ・学び合う」姿勢にふれて、私自身、どこか構えていた気持ちがとても楽になりました。みなさんの一所懸命さがまっすぐに伝わってくるのです。私はそれに応えられるようにと、お話をしていくのが、ほんとうに楽しかったですし、たくさんの方のことを学ばせていただきました。心から感謝いたします。